

NUIS 学園探訪

シューカツの frontline 基地に

「就職キャリア支援室」新設から1年

きめ細かな就職指導とリアルタイムの情報提供をしている「キャリア支援室」が、昨年9月に開設され間もなく1年になります。全学生と面談を実施し適切な確かなアドバイスをするなどして高率の内定率を維持継続してきました。今年は東日本大震災などでさらに厳しい求人状況となっていますが、就活の front line 基地として実効性のあるサポートを展開しています。

まずは学生がいつでも入りやすく、気軽に何でも相談できるようにと本校2階管理研究棟に新設された「キャリア支援室」。1階事務局にあった就職課がネーミングも体制も一新されました。就職に関するガイダンスやプログラムの編成と実施、データ収集、企業へのアプローチ、資格取得サポートなど、アットホームな雰囲気や個人一人の希望や個性に応じた個別面談とアドバイスをしていきます。学生が集うホール

気軽に相談的確サポート

戦略的な情報リアルタイムで

の中で特に、先輩たちの残っていた具体的な情報収集や内定までの経緯や筆記試験や面接でのアドバイスなどがぎっしり書き込まれた就職活動中の学生に役立つ情報です。パソコン検索コーナーは、企業情報、求人情報をデータベース化した独自のシステムで、学内のほとんどがパソコンからアクセスでき、大学の

き方から服装や挨拶の仕方に至るまであらゆる相談に乗っています。就職を成功に導くことは大学の重要な社会的責任の一つになっていきますが、指導に当たっている就職指導委員長・白井健二教授（情報システム学科）とキャリア支援課・西脇茂雄課長はともに「就職が最終目標の学生が、社会に出るために必要なスキルを身につけるためのサポートを提供している」と情報戦略構築上、最大の価値あるもので、いち早く伝えるために常に学生と接触し、スマートフォン

携帯やパソコンを駆使している」と話し、訪れる学生たちと気安くかつ真剣に触れ合っています。本学の就職進路指導は、まずは1年生の自己啓発のための「キャリア開発ガイダンス」から始まり、2、3年次には情報を手に入れる「就職活動支援プログラム」、進路を考える「キャリア開発関連科目」を各取得など自己を磨く「各種支援プログラム」の3ステップでレベルアップに取り組みます。さらに就職内定者にも社会人としての適応力を身に付ける「就職事前研修」も行われ、本学独自のeラーニングを活用した総合的支援プログラムが、文科省の「大学教有・学生支援推進事業」に採用されています。このようにキャリア支援課では、大学の学外ネットワークや卒業生ネットワークも有効に活用しながら、スタッフが生徒と一体となった支援活動に、日々総力を挙げて取り組んでいます。



CONTENTS

(2・3・4面)

派遣留学・夏期セミナーの壮行会
5カ国へ55人、7月末から出発
新潟での中国語コンテストで準優勝
親睦深めた学内スポーツ大会

(5面)

学生食堂で和やかに
新入生歓迎会
優秀な学生20人に表彰奨学金
新潟県ゴルフ・アマ公式戦で
県知事杯を獲得
平成24年度入試日程概要一覧

(6・7面)

オープンキャンパス案内
私の研究テーマ
教員の活動(2011年上半年)
新潟中央キャンパスで
「日本平和学会」
湧源・編集後記に代えて

(8面)

地域の祭りで東北応援フェア
NUIS Music Festaを開催
中原邸春の公開で
茶道部がお点前披露
卒業生の便り

交流して地球市民となれ

国際化・グローバル化時代に生きる若者には、国際社会に対する幅広い教養―国際感覚―を身につけることが求められているといえましょう。このような人材育成をめざす本学の国際研究や異文化理解の教育の中でも、派遣留学制度はその中心となるプログラムです。感受性豊かな若い時代に、何はともあれ異文化の中に飛び込んで世界を体感することは素

派遣留学

5週間は留学というには短期間すぎますが、毎日がネイティブ英語の授業、アルバート大の学生との会話サロン、現地のIT企業見学、ロッキーツアーなどさまざまな経験が待っています。

異文化に飛び込み世界を体感

情報文化学科長 小山田 紀子

晴らしいことです。現地では、言葉の壁や不慣れな日常生活からカルチャーショックを受けたり、苦い経験を多く積んだりすることになるかもしれません。しかしそ

留学するにあたって、日本について紹介できることを準備しておくことをお勧めします。3・11東日本大震災以後の日本の状況や、あるいは自分や家族のことを話せるよう

半年間の留学生活は、帰国後、今まで気づかなかった日本や日本人を客観的に見る視点を提供してくれ、また国や文化の違いを超えて地球市民としての共感を抱かせてくれることにもなるでしょう。派遣先のロシア・中国・韓国・アメリカのそれぞれの大学では、先生方も学生たちも皆さんを温かく迎え入れてくれます。失敗を恐れずに、さまざまな国の人々と積極的に交流し、留学生活が実り豊かなものになることを祈念してやみません。

カナダに到着しての最初の経験は、空港での入国カウンターでネイティブスピーカー

積極的に英語を使い大きな収穫を

情報システム学科長 岸野 清孝

夏期セミナー

カーとの会話となります。ドキドキしながら、その時にネイティブ

ぜなら世界で20億人が英語の教育を受けている中で、ネイティブは3億人だけで、つまり外国人は全て英語がうまいわけではないのだから、英語

行きます。」を日本人英語では「I go to Kyoto by car」と言いますが、ネイティブでは「I drive to Kyoto」と言います。「もう少し大きな声でお願いします

大事なことは次の3つです。①下手な英語でもまずは積極的に話す。②分からない場合は何度でも分かるまで聞き直す。③日本語以上に論理を明確に話し、意思をはっきり伝える。瞬く間に過ぎてしまう5週間、このことができたなら大きな収穫が得られたといえるでしょう。

5カ国へ55人7月から出発

壮行パーティー 健闘誓い合う

間もなく派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）に出发する学生たちへの奨学金授与式と壮行パーティーが、6月22日に本校の国際交流センターで開かれました。

今年度はカナダ（アルバータ大学）へ4人、アメリカ（ノースウェスト・ミズーリ州立大学）へ13人、韓国（慶熙大学）へ13人、ロシア（連邦極東大学）へ7人、中国（北京師範大学）へ18人の合計55人が海外留学に初挑戦し、7月31日のカナダを皮切りに順次出発します。

	中国	韓国	ロシア	アメリカ	カナダ	計
平成7年度	29	14	7	13		63
平成8年度	15	13	20	17		65
平成9年度	31					31
平成10年度			7	14		21
以上 海外研修計	75	27	34	44		180人
平成12年度	30				20	50
平成13年度	15	12	6	17	14	64
平成14年度	17	9	3	13	17	59
平成15年度	〈中止〉	4	1	11	6	22
平成16年度	31	7	2	13	8	61
平成17年度	18	13	5	12	22	70
平成18年度	9	5	0	7	3	24
平成19年度	16	10	12	25	9	72
平成20年度	9	7	9	12	13	50
平成21年度	6	4	11	13	12	46
平成22年度	10	11	7	16	9	53
平成23年度	18	13	7	13	4	55
計	179	95	63	152	137	626人
合 計	254人	122人	97人	196人	137人	806

海外留学・セミナー参加学生の累計

国名／留学大学	留学期間	参加人数
カナダ アルバータ大学 生涯教育学部	平成23年7月31日～9月3日	情報システム学科 2年次学生 4人
アメリカ ノースウェスト・ミズーリ 州立大学教養学部	平成23年8月23日～12月18日	情報文化学科 2年次学生 13人
韓国 慶熙大学国際教育院	平成23年8月31日～12月22日	情報文化学科 2年次学生 13人
ロシア 連邦極東大学	平成23年9月3日～ 平成24年1月7日	情報文化学科 2年次学生 7人
中国 北京師範大学 歴史学院	平成23年9月10日～ 平成24年1月17日	情報文化学科 2年次学生 18人
参加学生数合計		55人

平成23年度のスケジュール表（出発順）

失敗を恐れずに

韓国へ



情報文化学科
笹川 青空

楽しみながら 一生懸命に成長

韓国コースは、8月31日から12月22日までキョンヒ大学で研修を行います。大学に入ってから韓国語を始めたメンバーが多く、不安などもあるとは思いますが、4カ月間しっかりと学んできたいです。

私は今年の2月に忠南大学で10日間の韓国語研修を行いました。授業は全て韓国語で進み、分からないところを質問するときも韓国語です。研修は4カ月あるというところで、2月に行った研修のときよりもたくさんのかたとを経験できるのではないかなと思っています。分からないことは恥ずかしいことではなく、分からないことを分らないままにしておくことはとてももったいないことだ、という意識をもつて、積極的にさまざまなことに取り組みたいです。意欲的に授業を受けられるのももちろんですが、食事や買い物したり、学生や先生や街の方々と会話をしたり、勉強以外の面でも韓国語を学び、身に付けたいです。

中国へ



情報文化学科
小林 裕美

積極的に話して 目標達成に努力

私たち中国コースは9月10日から約4カ月間、北京師範大学へ留学します。1年前、言語を選ぶ時点では留学することは全くといっていいほど考えてなく、高校時代に中国

語を簡単に学んだことがあり、楽しかった記憶があった。選択しただけでした。留学から帰国したばかりの先輩方から話を聞く機会があり、とても充実した4カ月間のさまざまな体験談を聞かせていただき、留学を意識するように次第に行きたいと思うようになりました。留学が決まり、自分の中で大まかな目標を設定することにしました。私は自分から話しかけることが苦手で、人と仲良くなるまでに時間がかかってしまうことがよくあります。しかし、留学してまでそのような状態では言語も上達しない上に、実際に他国との異文化を体験し理解できるという、留学の意義を無駄にしてしまうことになりました。なので、少しずつでも多くの人と積極的に話すようにしたいと考えています。まだ中国語を学び始めて1年もたっていないので、使える単語、文法は他国からの留学生に比べればとても少なく、発音も完璧ではありません。それでも、持っている限りの中国語を使い話すようにしたいです。

私たちは18人は、それぞれが目標を持って今回の留学に臨みます。台湾ドラマを字幕なしで観られるようになりたい人、世界遺産をたくさん見たい人、いろんな国の人と友達になること、値切り交渉の実践などです。全員が目標を達成できるよう、それぞれが努力し有意義な留学になるといと思っています。

アメリカへ



情報文化学科
高井 あゆみ

若い時の苦勞を 買ってでもする

私は中学2年生のときに、アメリカに2週間ホームステイをしました。アメリカに着いて、ホストファミリーの車に乗った途端、何を言っているのか早過ぎて分からない。単語すら聞こえてこない。どうしよう。といった状態でした。次の朝起きて、今日伝えたいことを辞書で探して、文を作って、文章も発音も合っているか分からないまま伝えたりもしました。でも日常での会話は予期できないので、分からないままイエスカノーでやり過ごすこともありました。当然、イエスカノーでは解決しない会話もあったので、とにかく身振り手振りで必死に伝えていました。ホームステイの後半は、単語も少しだけ聞き取れるようになり、自分の意思が伝わったときは本当にうれしかったです。この2週間は、毎日新鮮で、楽しい思い出がたくさんあります。でも私にとって悔しいと感じる経験でした。この気持ち、この大学に入学した理由と留学を希望した理由です。しかし、アメリカコースは費用もかかる、大学の学費もかかる。その上、先輩方のお話を聞くと、先生が厳しい、山ほどある課題で寝る間もない。これらの話を聞いたとき、親に少なからず迷惑をかける、そして自分は耐えていけるのか、行きたい気持ち揺れました。正直今でも不安でいっぱいです。でも、高校生のときに「若い時の苦勞は、買ってでもしろ」と父に言われたことがあります。この言葉は、私の生活は、何一つ不自由なことはなく、周りの人に依存している毎日だからです。しかし、「留学に行つてやっていけるか自信がない。だから行かない」と思いました。そして、自分が過ごしている環境を客観的に見て、自分がいかに甘えているかを痛感しなくてはとも思いました。留学が、私自身にとってどのような経験になるのかは分かりません。でも、アメリカで言葉がうまく伝えられなくて、情けないと感じても、先生に大量の宿題を出されても、「若い時の苦勞は、買ってでもしろ」と言い聞かせて5年後、10年後に、留学でのエピソードが笑い話になるように、アメリカで生活していきたいです。

壮行パーティー





新たに2種目楽しむ 入念な準備、協力に感謝

スポーツ大会を終えて

スポーツ大会実行委員長
情報システム学科3年 神林 昭広

恒例の学内スポーツ大会は5月21日に行われ、晴天に恵まれ順調に終えることができました。今年は去年の冬に実施したアンケットを基に、新たな種目にバスケットボール「Wi Sports」を加え、例年とは違うスポーツ大会を目指しました。

これらの種目は私が入学以来初めての種目で、バスケットボール部とルールに関し入念に打ち合わせをしました。Wi Sportsも全く新しい企画だったので場所、機器の調達、ルールなど一から実行委員で話し合い、何とか形にすることができました。しかし、前準備が滞ったことによるエントリー開始時期の遅れや、Wi Sportsの宣

伝不足など、反省するべき点もありました。この反省を無駄にはせず、来年度のスポーツ大会、今年の10月にある紅翔祭にも生かしていきたいと思っています。

カナダへ



情報システム学科
五十嵐 光

生活の違い体験 感性を深めたい

アルバータ大学には日本の他の大学だけでなく、さまざま

まな国から留学生が来ています。そこで私は異文化に触れられるこの貴重な機会で、自分から積極的に多くの人と英語でコミュニケーションを取り、ネイティブ英語をぜひ身に付けて帰ってきたいと思っています。

留学中はホームステイや企業の訪問、カナディアンロッスキーツアーなどさまざまな経験をしています。私はこの

チャンスを通して、日本とカナダの生活や考え方の違いをしっかりと見ること、感性を深めたいと思っています。5週間という短い期間であつても、いろいろと辛いことや不安になることがたくさんあると思いますが、少ない人数の中でお互いに助け合いながら、より有意義な留学生活を送りたいと思います。

ロシアへ



情報文化学科
小杉 春花

いろんな興味 たくさん発見

私は春休みに日ロ交流ツアーに参加しました。約1週間のツアーでしたが、普通の旅行とは違って、1日に二つから三つのロシアの大学を訪問し、ロシアの学生とたくさん交流することのできるツアーでした。

普通の観光よりも多くのロシアの人たちと接することができたので、ロシア学生の勉強に対する意識の高さにも、すぐに気付くことができました。私が交流したロシア学生は、みんな勉強することが好きで、本当に楽しそうでした。その姿勢をみて、私の勉強するやる気も一気に上がりました。

新潟の中国語コンテストで準優勝

情報文化学科4年 藤崎 貴行

新潟で初めて開催された世界大学生中国語コンテスト予選大会（4月23日・新潟教育会館）に出場し、予想以上の第2位（中国総領事賞）という評価をいただき、中国湖南省での夏キャンプに招待されることになりました。本学からは高波

優也さん（情報文化学科3年）も参加し優秀賞を受賞しました。本学の国際関連科目を勉強し、2年次の派遣留学制度で中国の北京師範大学に留学したことによって、私の視野が次第に世界へと広がりました。派遣留学を終えて間もない頃から、心の中で再留学を決めていました。お金が無いので、物価が比較的安い地域、日本人留学生があまりいない大学を考えてハルビン工業大学

ハルビン再留学を語り

を選び、一年休学してまた中国に向かいました。ハルビンは黒竜江省の省都で、歴史的には満州鉄道が通って伊藤博文が暗殺された地です。冬になると気温がマイナス40度まで下がったりしますが、ライトアップされた氷の彫刻がロシア建築の街並みを照らすようなロマンティックな一面もあります。留学中は本当に好きなことをしました。連休や長期休暇を利用して、他国の留学生や中国人の友人と至る所に旅行に行きました。北京に行つて旧友と再会したり、上海に行つて万博を見たり、広州を訪れ歴史的な西漢南越王墓博物館を見学し、船に乗って海南島に向かったのも、懐かしい思い出です。中国語コンテストでは、

民族楽器フルスを演奏

留学生の友人が作ってくれたよく分からない辛い鍋をつつきながら、お気に入りのお酒を思い出し、冷、心要熱（頭はクールに、ハートは熱く！）。



スピーチする藤崎さん（新潟日報社提供）

たった1週間の体験でも、自分の考えや価値観が変化したので、4カ月の留学ではもつといろんなことに興味を持つて、たくさん発見ができるんじゃないかと思っています。悩むこともあるとは思いますが、1日もムダのない、楽しい4カ月にしたいです。

本学の優秀な学生を表彰し、一層の活躍を激励する表彰奨学金の授与式が6月22日に行われ、平山学長から証書と奨学金が手渡されました。

今年度の表彰学生は20人。学業成績優秀者（前年度の修得科目の成績が各学年・学科におい

一層の励み20人に奨学金

学業と課外活動の優秀者に

て優秀であった者）は15人で各30万円、また課外活動で顕著な成績を挙げた功労者は5人で10万円がそれぞれに授与（給付）されました。

平山学長らは一人一人に声を掛けて日ごろの努力をたたえ、一層の精進を期待していました。

会場では平山学長や越智学部長、區学生部長や

装いも新たに新入生歓迎会が5月25日夕方6時から、本校みずき野キャンパス学生食堂の「弥彦」で行われました。

今年度の新入生歓迎会は、昨年まで行われてきた合宿研修会に替わるもので、これまでよりも新入生相互の交流や、教職員などとの親睦をより深めるようにと工夫されました。より楽しくリラックスした雰囲気の中で、学習や課外活動への取り組みややる気をアップ、大学生生活全般の不安や悩みなどを気軽に話し合っ

夕食を囲みながら 楽しい雰囲気で「新入生歓迎会」



五十嵐学友会長らが、大いにキャンパス生活を楽しんでほしいと激励した後、夕食を楽しみながら教職員と新入生が一緒になって懇親を深めました。次第に打ち解けた新入生からは「両学科の同僚と交流できてよかった」「先生と気軽に話ができはっとした」などの声も聞かれました。

練習の成果、目標さらに高く



す。思っていま

生決勝に向け日々努力すること

た。

二重の喜びでした。

清野 未琴

ゴルフ「県知事杯」 大会で優勝

情報文化学科2年

平成24年度 入学者選抜試験概要（要約一覧）

※詳細は本学学生募集要項でご確認ください。※出願期間は消印有効。

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間
推薦入学試験	情報文化学科 10 情報システム学科 20	30	23年11月1日(火) 11月8日(火)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います	23年11月17日(木) 12月2日(金)	23年11月17日(木) 12月2日(金)
	情報文化学科 30 情報システム学科 35				面接・小論文 学力推薦要件：全体の評定平均値3.8以上または国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語(英語)のうち、いずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること		
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文・競技実績 対象科目については、募集要項で確認してください		
	情報文化学科 情報システム学科				面接・小論文		
社会人入学試験	情報文化学科 情報システム学科	若干名	24年1月5日(木) 1月21日(土)	新潟上越長岡	・国語：国語総合(現代文)・現代文 ・数学：数学I・数学II(数学IIは微分・積分を除く) ・外国語：英語I・英語II 上記3教科の中から2教科以上を選択(3教科受験した場合は高得点の2教科を合否判定に使用。)	24年2月7日(火) 2月16日(木)	24年2月7日(火) 2月16日(木)
	情報文化学科 35 情報システム学科 60				学科試験を課さず、平成24年度の大学入試センター試験の成績で判定。各学科の利用教科・科目の中から2科目選択配点：各教科100点(3科目以上受験した場合は高得点の2科目を合否判定に使用。国語は近代以降の文章のみ利用。外国語(英語)はリスニングを含む。)		
	情報文化学科 15 情報システム学科 20				※各学科の利用教科・科目の詳細については、学生募集要項でご確認ください		
	情報文化学科 10 情報システム学科 15				・国語：国語総合(現代文)・現代文 ・数学：数学I・数学II(数学IIは微分・積分を除く) ・外国語：英語I・英語II 上記3教科の中から2教科以上を選択(3教科受験した場合は高得点の2教科を合否判定に使用。)		

本学独自の 奨学金制度（給付）

- 学費特別給付奨学金(前期入試受験者対象)授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2～4年生対象)10万円～30万円
- 海外派遣留学・海外研修奨学金(2年生対象)15万円～23万円

- 資格取得奨励奨学金(全学年対象)I種5万円、II種2万円
- 学費臨時給付奨学金(全学年対象)授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2

◎入試と奨学金の詳細については入試・広報課までお問い合わせください。 TEL025-239-3111 E-mail nyushiweb@nuis.ac.jp

OPEN CAMPUS 2011 オープンキャンパス

高校生はじめどなたでもご参加できます！



開催日
2回目 **8/7日** AM10:00~PM3:30
3回目 **9/11日** AM12:00~PM3:30

会場 新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)
※変更となる場合もありますので事前にご確認ください。

- 学科およびカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学
- 保護者向けプログラム

参加お申込み 高校の進路指導の先生、もしくは下記までお申込みください。
お問い合わせ先 **新潟国際情報大学 入試・広報課**
〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
TEL025-239-3111 FAX025-239-3690
E-mail soudan@nuis.ac.jp

私の研究テーマ

私の専攻は歴史学、極東ロシア地域文化研究、現代日本文化研究です。さらに詳しく言うならば、サハリン・樺太の歴史、いわゆる北洋漁業と「北洋」概念の歴史、現代の日本文化における「ロシア」表象の歴史、北東アジアにおけるコンブの生産と流通の歴史に関心があります。

サハリンは北海道の北にある島で、現在はロシア領です。この島の南半分は1905年の領土でしたが、1905年から1945年の間にまたロシア(ソ連)領になりました。言葉で言うと簡単ですが、その土地が外国になり、住民が大きく入れ替わるといのは大ごとです。しかもそのきっかけは戦争です。私はそこに関心があります。

19世紀後半以来、日本人はロシア(ソ連)極東の沿岸で漁業を行ってききました。新潟からも多くの漁業者が北の海を目指しました。ただし、行った先ではロシア人や先住民との間にさまざまな軋轢が生じま

極東ロシア地域文化、そしてコンブの考察

情報文化学科・准教授 神長 英輔

した。それでも日本政府の積極的な助けがあつて出漁は続きます。実のところ、日本では「ロシアの沿岸での漁業」と言わず、あえて「北洋漁業」と表現してきたことには裏があります。見過ごされてきたそうした歴史的な「裏事情」に関心があります。

現代日本の文化の中には、ロシアに関する多くのステレオタイプ(紋切り型の先入観・イメージ)があり、多くの人々がそれを共有しています。そうしたイメージがどのように生まれ、どのように共有されてきたのか、現代日本に生きる一人として大変興味があります。

皆さんにおなじみのコンブ。19世紀の末、サハリンや北海道で生産されたコンブの多くは、中国人商人の手によってウラジオストクや函館経由で中国に運ばれていました。こうしたコンブの道に注目すると、当時のロシア・清(中国)・朝鮮・日本・欧米の関係について実に多くの発見が得られます。コンブのおかげで実に楽しい今日の頃です。

教員の活動 (2011年上半期・本人申告による)

1) 研究論文・図書

安藤 潤(情報文化学科・准教授)

- ・(2011年)「Husbands' Housework-Sharing Behavior in Japan: Field Experiments on Identity and Gender Display,」CSES Working Paper Series, No.59, Department of sociology, Cornell University(http://www.economyandsociety.org/publications/wp59_Ando_HusbandsHousework.pdf), p. 1~36.

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

- ・(2011年)「強制される忠誠:フィランソロピーとリベラル・ナショナリスト」日本政治学会編『年報政治学2011-I 政治における忠誠と倫理の理念化』木鐸社、2011年1号(93~112頁)。

小林 元裕(情報文化学科・教授)

- ・(2011年)「満州事変期天津における対日ボイコット運動と日本居留民」栗屋憲太郎編『近代日本の戦争と平和』現代史料出版(71~118頁)。
- ・(2011年)「華北分離工作期北京の日本居留民」『環日本海研究年報』第18号(44~50頁)。
- ・(2011年)「中国の経済発展と歴史認識」『史苑』第71巻第1号(51~54頁)。

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

- ・(2011年3月)「グローバルシティズンシップ」の射程『立命館法学』第333-334号(単著681~708頁)

2) 学会・研究会報告

小林 満男(情報システム学科・教授)

- ・(2011年5月28日)経営情報学会 2011年春季全国研究発表大会D2(政府・自治体)セッション司会(専修大学生田キャンパス)

中田 豊久(情報システム学科・講師)

- ・(2011年5月21日)「写経プログラミング:プログラミングを敬遠する学生に対する演習方法の一提案」日本創造学会 第9回 知識創造支援システムシンポジウム(北陸先端科学技術大学院大学)

吉田 博(情報システム学科・准教授)

- ・(2011年5月)新潟市・8大学連携「食育・健康づくり」研究事業 地産地消推進のための調査研究及び実証業務 事業成果報告書の作成 吉田担当「新潟らしい地産地消の推進に向けて」

3) その他

區 建英(情報文化学科・教授)

- ・コメンテーター (2011年3月5日~6日)国際シンポジウム 日中韓交流セミナー「近代東アジアのナショナリズムの相克」中国・広東外語大学の東アジア研究センター主催(中国・広東外語大学)。

- ・講演(2011年2月11日)「日中の友好協力と北東アジアの平和」新潟県平和運動センター主催(新潟県自治会館)。
- ・講演(2011年5月14日)「厳復の西洋思想受容一個と自由を中心に」アダムスミスの会主催(東京ガーデンパレス)。
- ・講演(2011年5月22日)「日中友好協力と中国脅威論」憲法九条五十嵐の会主催(道場山穂波の里)。

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

- ・共同研究主催、学会誌編集 学会誌編集委員長として共同研究を組織、以下の学会誌を編集、刊行。日本政治学会編『年報政治学2011-I 政治における忠誠と倫理の理念化』2011年1号、木鐸社、全331頁。
- ・新聞記事執筆 2010年度に引き続き、2011年度も『新潟日報』社外特別編集委員として論説「特別編集委員の目」「時々草々」を定期執筆。
- ・講演(2011年6月11日)「政治における『非常時』と市民」新発田9条ネット記念講演会(新発田市地域交流センター)。

桑原 悟(情報システム学科・教授)

- ・(2011年4月5日)新潟県税務総合オンラインシステム開発運用業者総合評価委員。

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

- ・講演(2011年1月9日)「漂流する日本外交を正す道——沖縄を起点に考える」新潟県教育労働問題研究会(新潟会館)。
- ・講演(2011年1月26日)「世界と地域につながる大学教育の実践」新潟大学人文学部主催シンポジウム(新潟大学)。
- ・エッセイ(2011年1月)「留学の終焉?」(新潟県国際交流協会「SHALL WE PORT?」Vol.19)。
- ・司会(2011年2月13-14日)国際シンポジウム「東アジア『共生』学の探求」富山大学主催(富山国際会議場)。
- ・講演(2011年3月12-27日)「グローバル経済と子どもたち——経済成長の裏に潜むモノ／次世代に手渡すもの」アルザにいがた主催 ジェンダーで社会を考える講座2回(万代市民会館)。
- ・司会(2011年4月17日)新潟県音楽九条の会4周年コンサート(新潟市音楽文化会館ホール)。
- ・司会(2011年5月3日)「映画『ANPO』上映会&トークセッション」ナイン新潟主催(クロスバルにいがた)。
- ・連載記事(2011年6月7日・8日・9日朝刊)「『3・11』から3カ月——核の危機と向き合う」上・中・下「新潟日報」対談。
- ・講演(2011年6月17-22日)「『3・11』以後の人権——境界線上の人々／わたしたちができること」新潟市坂井輪地区公民館「人権講座」2回。
- ・講演(2011年6月25日)「原発と憲法——『3・11』以後の日本を考える」護憲フォーラムにいがた主催(新潟自治会館)。

「日本平和学会」を開催

日本平和学会2011年度研究大会が本学（新潟中央キャンパス）で6月4、5日の両日に開催され、全国から延べ約300人が参加して活発な議論がなされました。県内からも、100人近くの一般市民によるオブザーバー参加がありました。

大会統一テーマは、「越境——平和の課題として考える」。あらゆる領域で境界線があいまいになった世界で、どのように人権や社会的正義を実現できるのか、開催校企画を含む6つの部会と、10の分科会に分かれて議論が深められました。また今年は、大会開催直前に東日本大震災が発生し、「フクシマ」を考える特別の分科会も急きょ準備されました。

初日の「平和学の方法と実践」分科会では、新潟水俣病の発生およびその後の政府対応の問題と「フクシマ」との共通点が議論され、本学の越智敏夫教授が討論者を務めました。また「平和文化」分科会では、災害下における在日外国人差別の実情が報告され、本学の吉澤文寿教授が討論者を務めました。

翌日の「平和運動」分科会では、ジャーナリストの鎌田慧さんが

「フクシマ」を考える特別分科会も

開催校企画テーマは「東アジア〈共生〉の条件」



分科会の様子。
報告はジャーナリストの鎌田慧さん。

んをお招きし、反原発運動の現状と課題について熱のこもった報告と討論が行われました。

さらに、5日の本学による開催校企画では、本学が創立10周年記念シンポジウム以来議論を積み重ねてきた、「東アジアへ共生」の条件がテーマとして選ばれ、古関彰一（獨協大学）、Cary Karacas（ニューヨーク市立大学）、前田哲男（東京国際大学）、五十嵐誠（千葉大学）、中村研一（北海道大学）、五十嵐暁郎（立教大学）各氏が登壇し、当該研究テーマをさらに深めることができました。

運営を支えた学生の成長が最大の収穫

現在、本学の文化学科教員（18名）中6名が当該学会の正会員です。今回の全国大会受け入れにあたっては、職員をはじめとする本学の多くの方々の協力と尽力なくして、今回の成功はありえません。また、新潟市の助成を受けることができたのも大きな助けとなりました。この場を借りて、あらためてお礼を申し上げます。

そして何より、案内や受付など、学会運営を縁の下で支えてくれた本学学生諸君が、期待以上にその役割を果たしてくれました。おかげさまで、参加した学会員からは口々にお褒めのことばをいただくことができました。学生諸君は、仕事の合間に興味をもった部会や分科会に参加し、一線の学会報告を聴く貴重な機会を得ることもできました。これら本学学生の成長こそ、本研究大会の最大の収穫の一つであったといえるかもしれません。

佐々木 寛

（情報文化学科教授）

退職教員

山口 直人教授

（情報システム学科）

（平成23年5月21日）

平成11年4月より本学勤務。

平成17年4月～18年3月まで

入試実施委員長。同18年4月

～19年3月まで再任。

湧源

編集後記に代えて

広報委員長 桑原 悟

「あちさんが怒るからやめなさい」。商業施設の売り場で、お母さんとおぼしき女性が4歳くらいの子どもに言った言葉である。

「あちさん」？初めて聞いた。新潟の（ある地方の）方言のようである。優しくかわいらしい響きであると思った。意味を調べてみると「あちさん」あちらさん「あちら様」よその人「知らない人」というような意味であるらしい。

なるほどと思ったが、しかしそうになると、このお母さんは「よその人に怒られるからやめなさい」と叱ったことになる。せっかく仄々とした優しい言葉を聞く機会に恵まれたのに「おや？」と思わざるを得なかった。もちろん「あちさん」という言葉には商品名のワゴンがあり、幕で覆ったワゴンの足元などは子どもから見れば絶好の遊び場ではあるが、資材が置いてあったり電気のコードがはっていたり、子どもには危ない場所である。ぶつかりひっかかりたり、物を倒して本人が怪我をする危険がある。そばを通る買い物客に危害が及ぶかもしれない。また、売り場にも迷惑である。

このお母さんの言葉は、子供を叱る言葉として適切であろうか。やってはいけない理由が「知らない人が怒るから」であるならば、子どもは「怒られなければやってもいい、あるいは、怒る人は嫌な人」となりはしないだろうか。

親としては自分の子供に嫌われたくないのは当然であるが、そればかりを考えていては「よい子」は育たない。よい子に育てたくない親はいないはずである。

孫の元気の良さについていくのがやっとなおじいちゃん、おばあちゃんであれば、ついつい口に出してしまいうちはあるが、若いお父さんお母さんには、正しい叱り方をお願いしたいものである。それが、その子たちが大人になったときの（その子たちが生きていく）社会の質にもつながると考えるからである。

卒業生の便り

未曾有の「3・11東日本大震災」からはや4カ月。今日までに岩手、宮城、福島、茨城の4県において計2500戸の仮設住宅を納めさせていただきました。素晴らしい仲間たちと共にこれまで事故も無き業務を遂行できたことは社会人として大きな財産となっています。その仮設住宅建設も大詰めに近いといえますが、学校・グループホーム等の公共施設の仮設建設、既存建築物の修理・改築など復興に向けての需要はこれからが本番になると予想されます。建設業界に身を置く一社会人として微力ながらも社会貢献すべく日々邁進しております。

全ては被災者のために！

大震災の現場で奮闘 応急仮設住宅を建設



ちの車の列。異様な雰囲気の中、目的地へとひたすら車を走らせました。赴任地に無事到着できたものの、宿泊地は停電その他の影響により断水、暖房も機能せず。ある程度の覚悟はしていましたが、未だ経験のない状況を目の当たりにし、いささかの不安を感じました。

翌朝、不安を抱えながら復興仮設住宅予定地の現場調査に向かいました。前日にした光景など比べ物にもならないほどの被害状況。ある地区は道路がガレキで埋め尽くされ、海岸沿いの地区では建物が跡形も無く町全体が全て飲み込まれた惨状。テレビでは伝わってこない、想像を超えた現実がそこにはありました。果たして仮設住宅を建てる場所があるのか？自分の使命を忘れてしまいうるようになるほどの衝撃を受けたのを思い出します。

仮設住宅建設もまさにゼロからのスタート、苦境の連続でした。これまでの平穩な生活からは想像できない障壁が立ちふさがり、毎晩のミーティングは深夜に及びました。疲労はピークに達し、衝突も絶えませんでした。スタッフ全員が相互協力し知恵を出し合うことで乗り越えてきました。私自身も電話やメールが不通の状況下で、自ら情報を求め、自ら考え、自ら情報を発信することが求められました。初心に帰り「報連相」の基本を徹底し、より多くのコミュニケーションを心がけました。

全ては被災者のために！今後もこれまでの経験を生かし震災復興に尽力すべく決意を新たにします。



赤塚スィカ祭り「東北応援フェア」

情報システム学科3年 山中 智成

「東北応援フェア」と題し、7月2日の赤塚スィカ祭りに参加して、東北の特産品などの販売を行いました。きっかけは私自身が震災の募金活動や、実際に被災地でボランティア活動をしてきたことととても関係があります。

しだいに大震災を取り上げるニュースが少なくなり、単純な「募金」ではない新しい応援の仕方を提案しようと、吉田ゼミのメンバーに声をかけました。被災地への思いを

新しい支援 特産品など販売

吉田ゼミの仲間たちとチャレンジ

届ける短冊コーナーや風船のプレゼント、津波被災地である大船渡の特産品「かもめの玉子」や、スィカに合うものということで「冷麺」を販売することにしました。

しかし、これらは「みちのく盛岡ふるさと大使」を務めておられる吉田博先生に仕入れを行っていただき「お金の事は気にするな、岩手を知ってもらうことだけを考えてアイデアを出せ」とおっしゃっていただいた先生の力なしでは実現できなかった試みではないかと思えます。被災地の皆さんの一日も早い復興を願って、また頑張っていきます。



NUIS Music Festa 2011を開催 サウンド迫力アップ!

情報システム学科2年 佐藤 翔

去年よりも演奏団体を増やし、アカペラサークルjoin'(2団体)、合唱部、吹奏楽部、他大学からのゲストバンド、軽音楽部(2団体)とかなり大がかりとなった音楽祭を6月25日に開催しました。

アカペラサークルは東方神起からポルノグラフィティなどのJ-POP、合唱部はジブリの主題歌など、吹奏楽部はポピュラー音楽を、30人超のメンバーで圧倒されるサウンドでした。ゲストバンドは「豆腐食べたくて、夏」という学生バンド(新潟薬科大学、新潟大学の混合バンド)で、あまりの迫力に魂が揺さぶられました。軽音楽部はオリジナル曲の弾き語り、THE BACK HORNの曲を演奏しました。本日に安定感のある美声で心をつかまれました。



当日は90人以上の見学にいらした皆さまにお抹茶を振舞い、趣のある庭園で風情を味わいながら楽しんでいただくことができました。

私たちが日頃の稽古の成果を披露するところにも、地元の方々と交流を深める良い機会になりました。

今秋再び公開の予定で、お手伝いさせていただきます。

本学の近く赤塚にある旧家「中原邸」で4月17日に行われた春の公開に、私たち茶道部は初めて参加させていただきました。中原邸とは、住居や書物ともに文化的な価値が高く、赤塚の歴史をたどる重要な財産でもあります。

茶道部長 情報システム学科3年 桐生政宣

「中原邸」でお点前披露 地元の旧家で交流深める